

令和3年度 山形総合支所長マニフェスト(総括)

山形総合支所長	蒲野 喜美男
---------	--------

【基本方針】

地域づくり活動の推進については、住民が自らの地域について考え、地元愛の醸成を図るとともに、主体的に取り組む地域づくり活動を支援します。

短角牛の振興については、山形村短角牛のブランド力向上のため、生産者を中心に関係機関と一体となり、安心安全な情報を発信し、増頭及び販売拡大を図ります。また、市指定無形民俗文化財である「いわて平庭高原闘牛(牛の角突き)」の発展継承に努め、後世に伝えていきます。

観光の振興については、日本一の白樺美林を有する平庭高原の環境整備を行うとともに、平庭高原、内間木洞などの観光資源を活用したイベントを開催し、誘客と地域の活性化に取り組みます。また、白樺の老木・倒木による美林の衰退・消滅の危機を受け、白樺林の維持・再生に積極的に取り組みます。

【重点目標】

1. 山形町の未来づくり計画「(仮称)やまがたビジョン」の策定に向けた委員会の開催	達成状況	一部達成
○内容 ■ 策定委員会を立ち上げ、令和3年3月に実施した山形町民へのアンケート結果等を活用しながら、ビジョン策定に向け委員会を開催します。 ・ 委員会開催(0回→5回)【コロナ影響】	●取組結果 ■ コロナ禍により進捗が遅れがありました。 ① 5月30日、町内視察 ② 7月15日、アンケート結果による課題認識 ③ 11月12日、ビジョンの内容と推進組織検討(当初は9月6日開催予定) ④ 1月18日、事業化リスト検討 ⑤ 3月2日ビジョン案の提示及び事業リストの吟味(当初は2月16日開催予定) ⑥ 令和4年度の早期にビジョンを策定する。 ■ 課題等 コロナ禍により委員参加者が少なかった。また、委員の課題解決のための意識醸成が必要である。 ■ その他 拙速に結論を出すのではなく、真に山形町振興のため深掘りして協議する必要があります。また、ビジョンの具現化に向けた組織づくりにも令和4年度は着手していきます。	

2. 市民団体が行う地域づくり活動に対する情報提供及び資金の支援	達成状況	一部達成
○内容 ■ 地元愛の醸成及び地域づくり活動の情報提供を行うとともに、主体的に取り組む地域や団体に対して、助成事業の紹介と活用を促し、地域づくり活動を支援します。 ・ 地域コミュニティ振興事業 ・ (H30-R2平均実績7,688千円→R3目標10件、補助額10,000千円)【コロナ影響】 ・ 地域づくりに係る支援事業の紹介及び相談・支援(R3目標3件)【コロナ影響】	●取組結果 ■ 地域コミュニティ振興事業 コロナ禍により諸活動の制限もあり、目標は達成できませんでした。 【実績】 8件:6,451,000円(64.5%) ■ 支援事業の紹介および相談支援 山形地区行政区長連絡協議会、地域まちづくり委員会、市民センターだよりでの紹介や随時の相談対応を行いました。 【主な実績】 ① 地域コミュニティ振興事業(8件) ② 自主防災組織:1組織の結成(荷軽部自治会)及び組織化の検討(来内、日野沢)、既存組織支援(川井:避難訓練他) ③ 公民館類似施設等補助金 ④ 町内会等防犯灯電気料等補助金 ■ 市民センターだよりの充実	

3. 山形村短角牛のPRと販路開拓、闘牛文化の維持継承	達成状況	一部達成
○内容 ■ 安全安心な山形村短角牛の生産振興と積極的なPRを行い、販路開拓と消費拡大に努めるとともに、「生産者と消費者の顔の見える関係」の構築維持のため消費者等との交流事業を行います。また、闘牛大会の開催による集客と更なる知名度の向上、闘牛文化の継承活動に取り組みます。 ・ ベコツアー参加者(R3目標45人)【コロナ影響】 ・ 闘牛大会の開催(R3年は新型コロナウイルス感染症対策を万全にして開催)(R2実績:年1場所、来場者750人→R3目標:年4場所、年間来場者2,400人)【コロナ影響】	●取組結果 ■ 全般的にコロナ禍の影響があり、一部達成はやむを得ないと捉えています。 ・ ベコツアーはオンラインツアーとして実施しました。実績:11月16日、25人(当初7月予定) ・ 闘牛大会は1回中止、3場所実施しました。 ① 5月16日、わかば場所 300人 ② 6月20日、つつじ場所 1,000人 ③ 8月22日、しらかば場所 中止 ④ 10月17日、もみじ場所 980人 合計2,280人 ■ 闘牛の県指定文化財に向けた取組を実施しました。(教育委員会事務局と連携) ※R3.7 に文献調査及び牛舎等視察の実施他 ■ 課題は、担い手の確保・育成、日本短角牛のPRや販路拡大、生産振興などです。国の農山漁村振興交付金事業(R3~5)等により、日本短角牛振興の更なる強化に取り組みます。また、三陸沿岸道路の開通を生かし、販促活動を強化していきます。	

4. 平庭高原の整備による自然環境の適正管理と白樺林の再生	達成状況	達成
○内容 ■ 平庭高原環境整備ボランティア「くじ☆ラボ」の活動支援やイベントを開催し、平庭高原の白樺美林整備促進による適正な環境保全と観光客の誘客に繋がる活動に取り組みます。また、中長期的な白樺林の再生の取り組みとして、現況調査及び技術指針の策定に着手します。 ・ くじ☆ラボ延べ参加者(R3目標80人) ・ 白樺林の下草刈り(R2実績4回→R3目標4回)【コロナ影響】 ・ 白樺の植樹(R2実績200本→R3目標200本) ・ レンゲツツジの植樹(R2実績84本→R3目標100本) ・ 白樺林再生に係る現況調査及び技術指針の策定【コロナ影響】	●取組結果 ■ 平庭高原の環境整備、白樺林の再生事業は着実に進展しています。コロナ禍により通年の観光客の入込は伸び悩みました。 ・ くじ☆ラボ参加者(日程はコロナ禍で変更) ① 7月4日 草刈り等 27人 ② 9月25日 植樹 124人 ③ 11月13日 笹刈り他 77人 合計228人 ・ 白樺林の下草刈り 3回(他1回は植樹) ・ 白樺の植樹 200本(計画通り) ・ レンゲツツジの植樹 172本(目標達成) ・ 白樺林再生の取組 森林総合研究所に委託し、現地調査等を実施しました。(R4.3.21報告会予定) ■ くじ☆ラボ事業は市民活動として定着しつつあり、参加者も増加傾向です。特に今年はセイコーウオッチ(株)の支援があり、ボランティアに社長以下多くの社員から参加いただきました。今後は、市内企業への呼びかけを強化していきます。 ■ 白樺林再生事業を含む平庭高原の整備は、長期展望のもと、計画的な整備に取り組んでいく必要があります。	

※【コロナ影響】…新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想される目標